

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や検査結果を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや検査結果を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

酵素法における静脈血を用いた血中重炭酸(HCO_3^-)濃度と尿沈渣成分の関連

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 松本雄貴（愛媛大学医学部附属病院検査部 臨床検査技師）

【研究の目的】

腎臓は体内の酸塩基平衡を保つために重炭酸イオン(HCO_3^-)の再吸収・産生および酸の排泄を行っている。そのため、血中 HCO_3^- の測定は代謝性アシドーシスを評価する上で必要不可欠な検査である。血中 HCO_3^- 濃度が低下すると代謝性アシドーシスの合併率が多くなり、様々な病態に悪影響を及ぼすため、早期に代謝性アシドーシスの補正が必要となる。現在、日本における血中 HCO_3^- 測定は動脈血を用いた血液ガス分析が一般的であるが、酵素法による静脈血でも酸塩基平衡障害の評価が可能である。尿沈渣検査では、腎疾患の病態・病期の推定に有用であり尿細管上皮細胞や顆粒円柱、ろう様円柱の出現が腎実質障害の形態マーカーとなる。そのため、酸塩基平衡障害の指標となる血中 HCO_3^- 濃度と腎機能マーカーとの関連性を検討し、特に尿沈渣における形態的な腎障害マーカーとの関連性について検討を行う。

【研究の方法】

(対象となる患者さん)

2021年5月以降2021年12月までに当院検査部において血中重炭酸(HCO_3^-)の測定及び尿沈渣検査を実施された患者さん

(検討内容)

酵素法にて血中 HCO_3^- 濃度の測定を行い、尿沈渣検査で尿細管上皮細胞および円柱の評価を横断研究にて行う。

(利用するカルテ情報) 性別、年齢、既往歴、身体所見、血液検査データ、尿検査データ等

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 > 愛媛大学医学部附属病院検査部 松本雄貴

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院検査部 松本雄貴
791-0295 愛媛県東温市志津川 454
Tel: 089-960-5620